

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	島根県	市町村名	益田市	大学名	
派遣日	令和6年11月20日(水曜日) 14:00～16:30 【第2回 日本語支援が必要な児童生徒教育研修会】 1. 出雲市の受け入れ体制について 14時～14時30分 2. 日本語指導の授業づくり 14時30分～15時15分 3. ワークショップ 15時30分～16時30分				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	益田市民学習センター				
アドバイザー氏名	文部科学省 外国人児童生徒等 教育アドバイザー 出雲市立中部小学校 教諭 福山祐子				
相談者	・益田市教育委員会 学校教育課 ・益田市内の外国籍にルーツのある児童生徒が在籍する小中学校の管理職・担任・日本語支援員				
相談内容	本市は、日本語支援が必要な児童生徒が、各校に点在している状況(7校に1名～3名在籍)にあり、各在籍校で校内体制を整え指導支援を行っている。しかし、日本語指導に精通している教員等の配置はない。そのため、指導支援内容につながる研修を企画し、各校の体制を支える必要があり、また、どの在籍校においても指導上大切にしたいことを共有する必要があると考える。また、来日歴の短い児童生徒も多く、日本語習得の道筋等の基本的な理解についても十分とは言えないため、系統立てた指導支援について理解を深めたい。				
派遣者からの指導助言内容	「学ぶ力を育むための日本語指導と支援」と題した研修の講師をしていただいた。 【研修の流れ】 ①出雲市の受け入れ体制について ・他市の状況から、本市で行える視点を持てるよう助言をいただいた。 ②日本語の授業作りについて ・「日本語で考える力」とは、どんなことか、そしてその力をつけるためにはどんな指導支援をしたらいいのか具体的な授業構成を示された。 ・「授業の作り方のコツ」として、3つのポイントを示された(①概念＝教科の概念に関すること ②語彙＝教科の学習に必要な語彙 ③表現＝理解したことを必要な語彙を使って説明)。この構成は、教科と日本語の統合学習であり、学習言語を繋げて、日本語で考える力を育むことになるとの助言を受けた。 ③②を踏まえて実際の単元からのグループワーク ・1年国語、2年算数、3年理科、4年国語、5年社会、中1数学の単元から、上記の3つのポイントについてグループで話し合い、派遣者から個別に具体的な助言をいただいた。どんな視点(支援)で授業を構成したらよいか、ワークを通して具体的に検討することができた。				
相談後の方針の変化、	・管理職なども参加し、グループワークをすることで、担任だけでなく学校の体制の中で、日本語習得のポイントや、どのように支えていくことが必要であるかを共有す				

(様式 3)

今後の取組 方針等	ることができた。 ・ 語彙（日本語）を大切にした授業づくりの構成のポイントを知ることができ、日々の授業の中で生かせるように感じた。教科と日本語の統合学習の視点を持って指導にあたる大切さを知った。 ・ 日本語支援員が、語彙（日本語）を大切にした関わりやサポートをしていく視点を持つことができた。また、担当している児童生徒の日本語の習得の段階を大まかに知ることができ、今後の支援の見通しを持つことができた。 ・ 本市は、日本語指導員の配置ができておらず、本市で配置している日本語支援員と学校の校内体制での日本語指導支援となっている。今後も継続的に学校訪問や研修を企画し、在籍校の指導支援体制を支えていく必要がある。
--------------	--

1 枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。